

附属学校最新情報紹介

学校名	宮城教育大学附属中学校		
役 職	校長	氏 名	猪股 智秋
活動名	特色ある教育「よりよい生き方を探究する生徒の育成」～その学び どう生かす～		

内 容

1 取組の概要

本校では、「よりよい生き方を探究する生徒の育成」を研究テーマに掲げ、教科教育はもとより、全教育課程を通じて生徒の学びを支えています。キャリア教育においては、**1年次**に保護者プロフェッショナルバンクを活用した職業講話およびインタビューを**2回**実施し、**2年次**には温海での職場体験、**3年次**には茅野市での地域活性化を視野に入れた体験活動を行うなど、系統的なキャリア学習を展開しています。また、キャリア教育や各種行事での学びの振り返りは「キャリア・パスポート」に記録し、生徒一人ひとりの歩みを可視化しています。

2 取り組みの詳細



1年次には、保護者プロフェッショナルバンクを活用し、さまざまな職業に就く保護者の方々から「仕事のやりがい」や「課題への向き合い方」について講話をいただき、生徒が働くことの意義や現実に触れる貴重な機会となった。



2年次には、山形県温海地方を訪問し、過疎化が進む地域で活性化に取り組む方々から直接お話を伺うとともに、地域の仕事や暮らしに関わる体験学習を行いました。生徒たちは、地域課題に向き合う姿勢や地域に根ざした働き方について学ぶ貴重な機会となった。



3年次には、長野県茅野市にて、地域の方々や移住者の方々が連携しながら地域活性化に取り組む現場を訪問し、体験活動を通して地域づくりの実際を学びました。その後、学びをまとめたレポートを作成し、自らの考えを深める機会とした。



「キャリア講演会」では、文部科学省教育課程課調査官・長田徹先生を講師にお迎えし、宮城県および仙台市の教員も参加して実施しました。教員にとっても、キャリア教育に関する理解を深める有意義な学びの場となった。



3 成果

【R6年度の全校アンケート調査から】

・「将来の目標や夢を持っていますか」の問いに**77.6%**(前年度比+**4.1**)の生徒が肯定的な回答をしました。中でも**3年生**は、**82.2%**で最も高い結果となりました。また、課題の解決に向けて自分で考え、主体的に取り組む生徒**94.7%**(前年度比**12.8%**)「学校生活を振り返り、自己の成長を実感できていますか」の問いに**93.2%**の生徒から肯定的な回答を得ることができました。最後に「今の学びが将来につながっていると思いますか」の問いに、**9割以上**の生徒から、肯定的な回答を得られています。これらの結果から、生徒たちが将来を見据えながら日々の学びに前向きに取り組む、自己の成長を実感していることがうかがえました。

4 課題や今後に向けて

・生徒のアンケート調査の結果から、「よりよい生き方について」経験を通して、自分なりの生き方を見出そうとしている様子が見られます。**1割弱**の生徒が、肯定的な意見ではなかったため今後は、一人一人の考えに寄り添い、より質の高い充実した実践ができるように考えていきたいと思ひます。

・保護者プロフェッショナルバンクに加え、地域の方々のボランティアバンクも活用して、幅広く生き方について考察させたいと思ひます。